

上湧別町

8341 向井 美奈実

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来

「ユウベツ」とは、アイヌ語で「鮫（サメ）の住む川」の意味で、これは昔、湧別川河口から近海にかけて相当数の鮫が生息していたことから、この名で呼ばれていたものと言われています。そして、湧別村から分村したときに「上」が付け加えられ上湧別村に。昭和 28 年 9 月 29 日の町制施行により「上湧別町」となった。

1.2 歴史

上湧別町の歴史はオホーツク海にそそぐ湧別川河口からはじまった。上湧別は屯田兵が開拓した町である。入植から 100 年余たった今もなお当時の区画で住宅が建っており、これは北海道でも非常に珍しい。町名にもその事が色濃く残っており、「屯田市街地（とんでんしがいち）」を町の中心に置き、南兵村（みなみへいそん）・北兵村（きたへいそん）など、入植時にちなんだ町名が今も残っている。

明治当初、未開の地であったこの地域にわずかの和人が住み着き、先住民であるアイヌの人たちと共に、漁業や狩猟、そして農場を営んでいた。本格的に開拓の鉤が入ったのは、明治 30、31 年。全国より北辺の開拓と警備の任務に志した屯田兵が移住し、総勢 399 戸の集落が築き上げられ近代社会が発展していくことになる。明治 39 年には湧別村が誕生。明治 43 年に分村し「上湧別村」が誕生（分村当時 1,230 戸 5,833 人）。その後、鉄道・名寄本線が大正 11 年に、昭和 28 年に湧網線が全線開通し、交通の要衝として発展してきた。現在は相次ぐ鉄道の廃止を契機に本町の特性をさらに活かした観光産業を推進しながら 21 世紀を迎えた。また、先人達の汗と涙の開拓の歴史を残す立派な資料館が建てられており、内部には当時の屯田兵屋がそのまま保存されている。

平成 17 年 10 月には、「屯田兵村と兵屋」が道民の選んだ北海道遺産に認定された。

図 1 上湧別町の位置①



出典 上湧別町 - Wikipedia -

図2 上湧別町の位置②



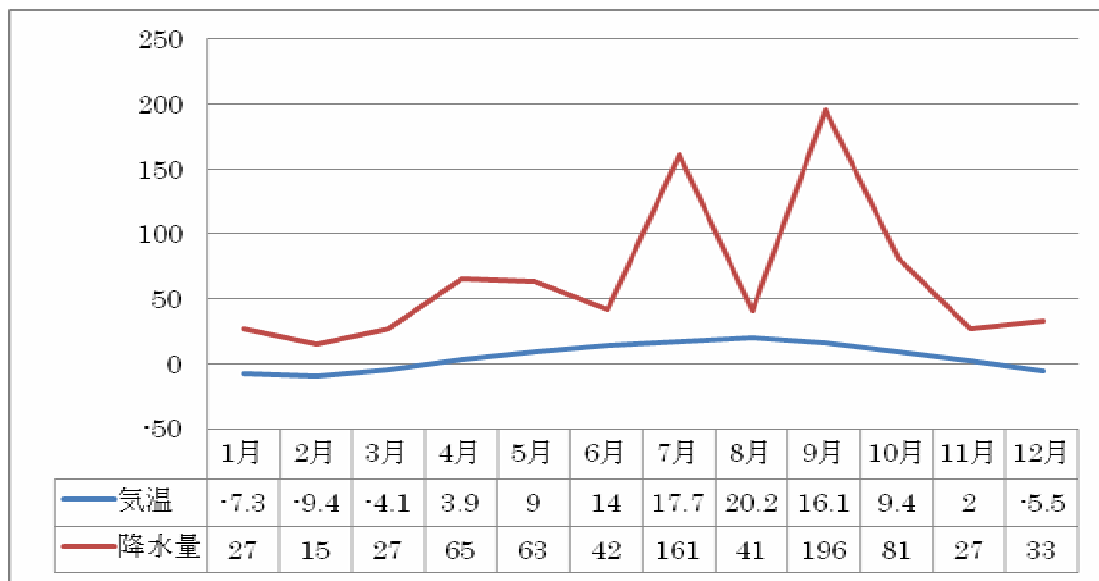
出典 上湧別町商工会 HP

2. 地理・気候

2.1 地理・気候

北海道の東北部、網走支庁管内の中央部に位置し、面積は161,39Km²と網走管内では2番目に小さな町。地形は、北見峠から発している湧別川が中央に流れ、この地域に平坦地が広がっている。気象はオホーツク海型気象地帯としての特色をもち、四季を通じて比較的気温は高い。冬季の気温は旭川、帯広よりもやや高く、また夏季は十勝、釧路、宗谷地方よりやや高い。降水量は年間600～800mmと北海道内においても小雨地域で、冬季の降雪量も少なく快適な生活地域。北緯44°09′、東経143°35′である。西南西部が高く東北に向かって次第に低くなり、その間、起伏する丘陵が広がっている。丘陵には複数の溪流があり、町の中央を流れる湧別川に流れ込んでいて肥沃な湧別原野を作っている。

図3 過去3年間の降水量推移



出典 上湧別町役場 HP

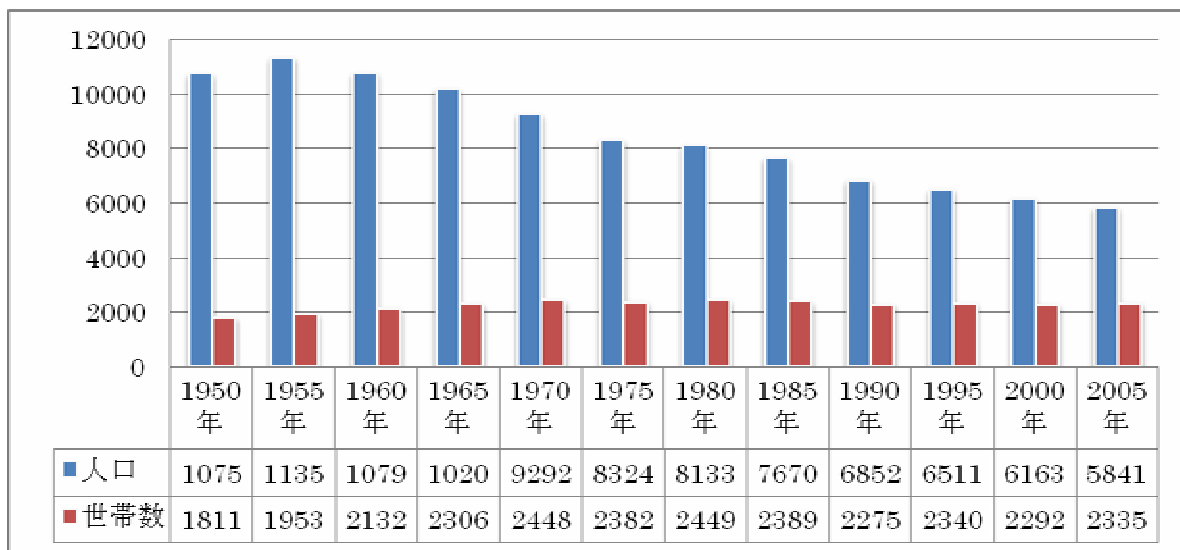
過去3年間の月別降水量は図3の通りである。

3. 人口・世帯数推移

図4からわかるように、人口は、1955年の11,354人から減少の一途をたどっている。65歳以上の高齢者人口は1,797人で30.8%と高い高齢者比率となっている。1995年と比較しても、人口は670人減で10・3%の減少。就職人口も593人減で17.3%の減少。一方で高齢者は

305人増え20・4%の増加となっている。ただし、世帯数については1958年に2千世帯台の大台を突破して以降、核家族の進行は人口の減少に反比例して世帯数を増やしたが、1971年の2450世帯あたりから増減を繰り返して頭打ちの状態となっており、2005年には2335世帯と横ばい状態となっている。人口が減少しているにもかかわらず世帯数が横ばいなのは、近年の日本にみられる過疎化、高齢化が関係しているのではないかと考える。

図4 人口・世帯数推移



出典 上湧別町役場 HP

4. 産業

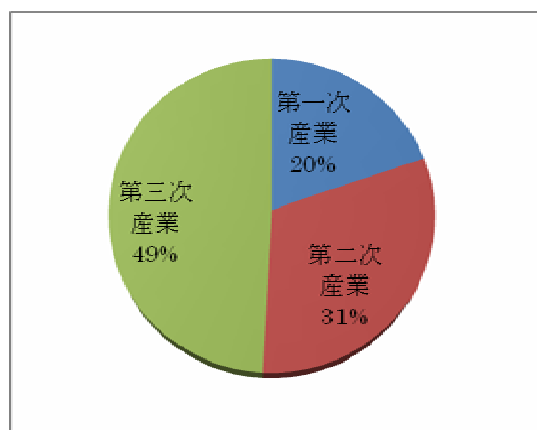
上湧別町の産業別割合は図5の通りである。見ての通り、第三次産業の占める割合が多い。上湧別町の基幹産業は農業、酪農であるのに対して第三次産業の占める割合が多いことは問題である。このことからみても過疎化、高齢化が関係していることがわかる。

次に土地の利用状況、第一次産業について見ると図6、図7の通りである。

図6から上湧別町の土地の約7割は山林、原野であり、自然や豊かな緑に囲まれていることがわかる。その豊かな自然を生かし、この町では農業が第一次産業の9割を占めている。

農業・酪農業、水産加工業、チューリップ観光業が主産業で、畑作では玉葱を中心に栽培

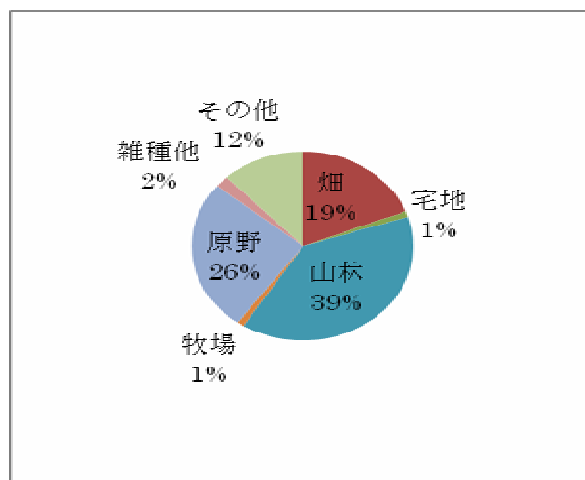
図5 産業別割合



出典 網走支庁 HP

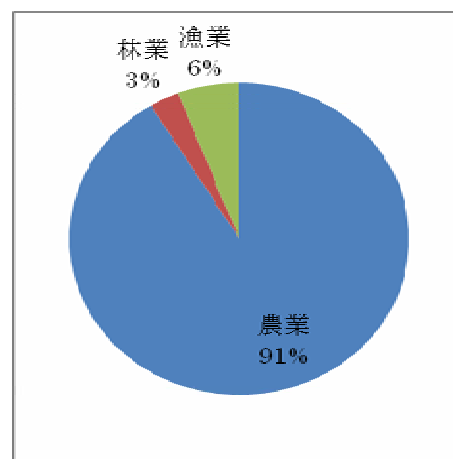
され、じゃがいも、アスパラ、カボチャ、ビート、小麦等の作物が栽培されている。
特産品はたまねぎ、じゃがいも、北限のリンゴ、チューリップ製品、アイスクリームなどがある。

図 6 土地の利用状況



出典 網走支庁 HP

図 7 第一次産業



出典 網走支庁 HP

5.1 上湧別町の農業

上湧別町では主に、たまねぎ、じゃがいも、アスパラ、ビート、小麦等が栽培されている。また、リンゴの産地としても有名である。(図 8、図 9 参照)

上湧別町は特有の沖積土でたまねぎ栽培が難しかったのだが、いち早く畑地灌漑排水事業を入れ干ばつを乗り越えるほか、コスト減や高品質たまねぎ生産に取り組んだ結果、2001年度土地改良事業地区営農推進優良事例表彰で、受益農家集団の部で農林水産大臣賞に輝き、高品質なたまねぎ生産を続けていることが認められた。

図 8 北限のリンゴ



出典 上湧別町役場 HP

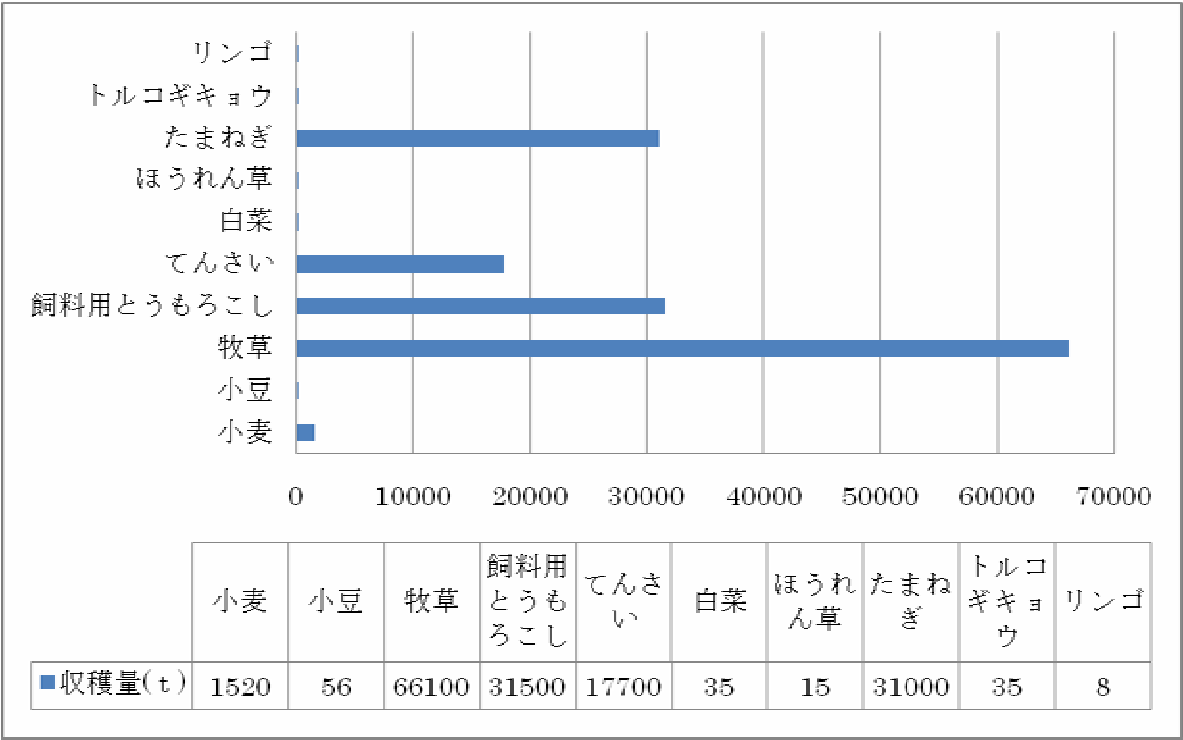
図 9 上湧別町のたまねぎ



出典 えんゆう農業協同組合

図 10 は上湧別町の作物の収穫量である。これを見るとやはり、特産品であるたまねぎの収穫量が高いことがわかる。また、てんさいや家畜の飼料であるとうもろこしや牧草も高い。

図 10 作物の収穫量



出典 市町村の姿

5.2 上湧別町の水産業

上湧別町では水産加工業が盛んである。季節にもよるが、主にアスパラ缶詰、カニ汁、ホタテ、イクラ、カニ、鮭、干しホッケ、珍味、干物などを全国へ出荷している。(図 11 参照)

図 11 アスパラ缶詰



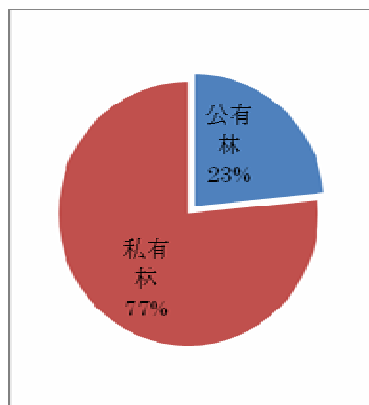
5.3 上湧別町の林業

上湧別町には、林野が多い。図 12 をみると林野率は全体の 47.1%と、約半数を占めていることがわかる。国有林よりも民有林の割合が高く、その中でも公有林よりも私有林の割合が高い。(図 13 参照)
広葉樹よりも針葉樹が多く、また、天然林よりも人工

出典 上湧別町商工会 HP

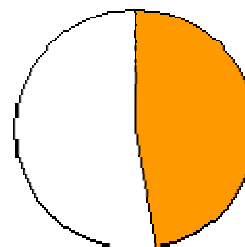
林が多い。

図 13 民有林の割合



出典 市町村の姿

図 12 林野率



出典 市町村の姿

5.3 その他

工芸品として図 14、図 15 のように、北海道産の槐、オンコ、桜、白樺などの自然の木を形を生かして加工したオリジナルの壺や器や、花器、花瓶、皿、また、上湧別町のイメージキャラクターであるチューピット君を形どった貯金箱など、陶器がある。

図 14 工芸品①



出典 上湧別町商工会 HP

図 15 工芸品②



出典 上湧別町商工会 HP

5.4 産業別人口

産業別人口は以下の通りである。

図 16 産業別人口割合(国勢調査)

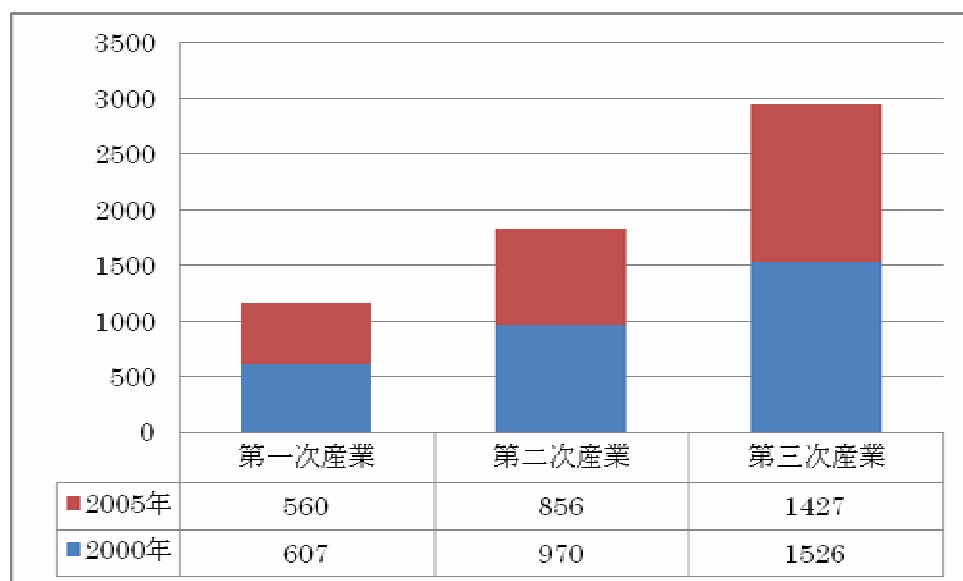


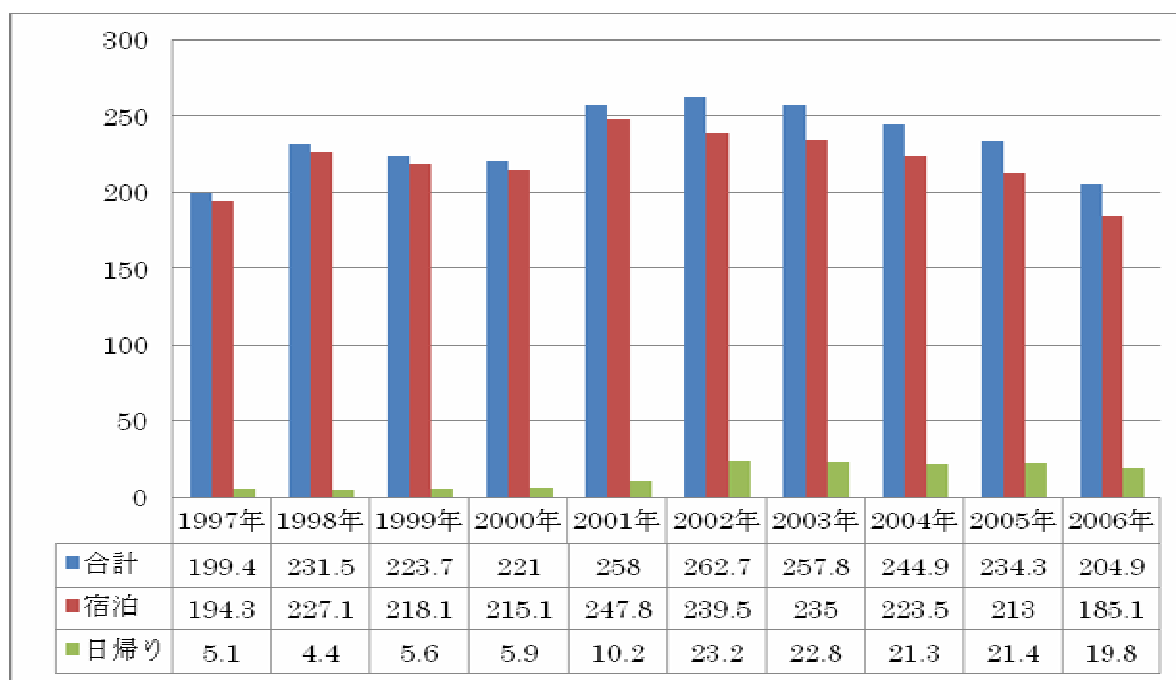
図 5、図 16 からわかるように、上湧別町の主産業は農業、酪農であるのに対し、第三次産業の占める割合が高い。第一次産業の担い手となる若者の減少、高齢化、過疎化が深刻な問題となっていることが示されている。

上湧別町は自然が豊かで緑の美しい町である。開拓以来その自然を生かし、農業や酪農で成長してきたこの町から農業が消えてしまうということだけは避けなくてはならない。そのために後継者の育成、町のアピールなどにこれからいっそう努力していかなければならないと思う。

5. 観光

図 17 は過去 10 年間の観光入り込み客数を表している。

図 17 観光入り込み客数推移



出典 網走支庁 HP

2000 年に入ってから観光入り込み客数の合計は 258 万人とピークである。

また、年々日帰り客数が増えていることがわかる。道路の整備や観光地の変化などに伴いこのような結果となったと思われる。

上湧別の町花であるチューリップは全国的にも有名である。

春風が訪れる頃、国道沿いのチューリップ公園には、100 種以上・120 万本もの圧倒的なスケールでチューリップが咲き乱れる。名所のチューリップ公園は、例年 5 月上旬から 6 月上旬にかけて“チューリップフェア”が開催され、多くの観光客でにぎわう。

・チューリップ公園

7 ヘクタールの広大な花畑に 120 品種・120 万本の色とりどりのチューリップが鮮やかに咲き誇っている。毎年、オホーツクに遅い春が訪れる 5 月上旬から 6 月上旬まで、公園ではチューリップフェアが開催され、切り花販売や球根の予約販売など多彩な催しも行われ多くの観光客で賑わう。平成 18 年には開園 20 周年を迎えた。

・五鹿山(ごかざん)公園

五鹿山を取り巻く樹齢 90 年の桜や 7000 本のツツジが咲き誇る自然環境に恵まれた五鹿山公園。春には福寿草やミズバショウ、夏にはキャンプ、秋は紅葉、冬はスキーと四季折々に楽しめる公園。キャンプ施設の充実度は高く、フリーテントサイトやオートキャンプ場のほか、ログキャビンも完備している。アウトドアシーズンには道東観光のベースキャンプとして多くのキャンパーが訪れる。また、園内には 150 種類もの貴重